西高だより

第 129 号
編　集
P T A 広 報 部
発 行 所
高知県立高知西高等学校
高知市鴨部2丁目5番70号
TEL 088-844-1221
http://www.kochinet.ed.jp/nishi-h/

グローバル社会への挑戦

校長　松木優典

卒業生の皆さん、三年の努力を実らせ卒業を迎えられたことを心からお祝いします。保護者の皆様にも心よりお喜び申し上げます。

あなた方は、真面目に、こつこつと堅実に頑張ってきた学年だったと思います。高校の三年間、勉強や部活動、生徒会活動、ボランティア等を通して、皆さんは着実に取り組み、それぞれの結果を残しました。この三年間の頑張りに敬意を表します。

今、日本ではグローバル教育推進のための施策が相次いで打ち出され、スーパーグローバル大学、スーパーグローバルハイスクール（SGH）、国際バカロレア（IB）等の大きなプロジェクトが全国の大きなうねりとなって動き始めています。本校でもSGHやIB、探究型学習に取り組み始めました。

これは、日本経済が元気を取り戻しつつある中で、世界に通じる人材の育成を図り、そして、日本が仲間として世界に受け入れられ、永く必要とされる国となることを目指すということでしょう。

ただ、社会のグローバル化は、何年も前から、企業活動等において既に動き出していました。教育の世界がやっとグローバル化対応を始めたということです。

かつての日本は、勤勉さと技術力で資源のなさを補い、世界の信頼を得て、世界の仲間入りを果たしました。かつてのグローバル化です。ただし、その主体は企業であり、産み出された製品でした。

これからは、日本人の一人一人が、世界から直接信頼を得ることが大切で、日本人らしい誠実さで世界の人々と直接つながることが求められます。世界に通じる人間性が必要とされ、いわば新しい日本人の〝創造〟が求められています。

また、グローバル化の浸透具合も国情により様々です。一例を挙げると、東南アジアのある国では、グローバルな感覚や語学力を身に付けることが身を立てていく必須条件である、とのことでした。

今の日本は、こうした立身型のグローバル化とは趣を異にしています。日本の取り組みが進むにつれ、日本にビジネスチャンスを求める人や技術を求める人が日本を訪れ、全国的に海外出身者が暮らすようになりました。本県でも、農業や漁業の技術を学んだり、船舶に関する資格取得を目指したりする人たちが、アジアの国々から毎年訪れています。

誤解を恐れずに言うならば、資本や富の世界的な流れの中に日本を位置づけ、国内資本系の企業を更に発展させ、世界をリードする国となることを目指すのが、今の日本のグローバル化です。そして、この中で求められる人材は、世界と互角に〝戦える〟人材、共に未来に向けて世界を発展させられる人材です。これからは、どこに暮らそうが、何の仕事に就こうが、この人材が求められます。

卒業にあたって、最後に皆さんに問いたい。この変化の中で、自分自身をどのように変化させ、成長させますか？ 世界と互角に〝戦い〟かつ、共に未来に向けて世界を発展させられる能力とスキルを求めて、皆さんには挑戦し、冒険して欲しいと思います。社会への自覚と気概を持って、高知西高等学校の卒業生としてグローバル社会をリードして下さい。あなた方の人生とあなた方の生きる社会に幸多からんことを祈ります。

輝く未来に向かって

PTA会長　濱田幾久子

三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

三年間、学業に、そして部活動によく頑張られたことと思います。楽しかったこと、悔しかったこと、さまざまな思い出が胸の中に残っているでしょう。あっという間の三年間ではなかったでしょうか。

保護者の皆様、お子様のご卒業、本当におめでとうございます。お子様の心身ともの成長振りに目を見張られた三年間でしたでしょう。PTA活動では多くの皆様にお世話になりました。ありがとうございました。

皆さんは今日西高を卒業されますが、忘れないでいてほしいことが二つあります。

「lifelong learning」

日本では「生涯学習」と呼ばれ、その定義は「人々が自己の充実、啓発や生活の向上の為に、自発的意思に基づいて行うことを基本とし、必要に応じて自己に適した手段、方法を選んで、生涯を通じて行う学習である」とされています。

近年までは、教育とは教師の指導に従って学ぶというものでした。しかし現代では「自ら考え、学び、行動する」そのことこそが教育の本来の姿であると考えられるようになってきました。これは生徒に限らず成人についても当てはまるのではないでしょうか。

学校教育だけではなく、社会や職場においても、又は家庭の専業主婦でも、さらには社会の第一線から退いていても、自分のキャリアを切り開き、または趣味や娯楽として、もしくはライフワークとして、何か新しいものを学び続けることはその人の人生を豊かで価値あるものにすると私は考えます。

皆さんは大学や専門学校、または社会へと、それぞれの道を歩まれますが、どこへ行っても向学心を持ち自分を高めることの出来る大人になって戴きたいと願います。

忘れないで戴きたい二つ目は、この西高の校訓であります「貫徹精神」

どこにどのような立場でいたとしても、どんな状況に置かれたとしても、己のやるべきことを「ハードスピリット」で取り組む。これこそが皆さんが西高で学んだ証ではないでしょうか。人生には「山あり谷あり」がつきもので、自分の思い通りにならないことも多々あれば、思い掛けない幸運に恵まれることもあるでしょう。努力して報われることもあれば、どれだけ頑張っても思い通りにならないことも人生には多々あります。しかしこれだけははっきり言えます。幸運の女神がもしいるとしたら、日々努力をしている人にのみ彼女は微笑むのです。

一度きりの人生をやりきってください。

ご卒業を祝福し、輝く光があなた方の未来を照らしていることを祈念いたしまして、またそうであることを確信いたしまして、PTAからのお祝いの言葉とさせて戴きます。

平成二十七年度 卒業生に贈る言葉

副校長　谷　富貴

ご卒業おめでとうございます。

十年後、二十年後は、現時点では想像もできない環境で仕事をし、情報を交換し、移動をしていると思われます。猛スピードで変化する世の中に対応するための底力となる幅広い教養と旺盛なチャレンジ精神を身に付けて、変化に動じることなく変化を楽しむ大人になってほしいと期待します。同時に、どんな時代になっても一番大切なものは人間の信頼関係、人を愛し、自分を愛し、人に愛される人間になってください。

教頭　市原　庸寛

〝グローバル〟に象徴される激動の時代に入った。世界の潮流は、実践的な人、行動的な人を求めている。やがて皆は巻き込まれるかもしれない。不易なるものは仁であり志である。また、順境にある者は怠りがちであり、逆境にある者は励みやすい。卒業おめでとう。

主幹教諭　中山　直之

卒業おめでとうございます。

社会の仕組みや流れが予想もつかない勢いで変化し続けています。

こんな時代だからこそ、これまでの人の歩みを学び、未来へと生きる力を身につけて欲しいと思います。

人から人へ伝えられるもの、人から人へしか伝えられないものを大切にしてください。

学年主任　岡本　圭史

第五十七期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

学年主任としてともに歩んだ三年間、いろいろなことがありました。理不尽なことを言ったこともありました。学年が上がるごとに理想と現実の狭間で悩み、難しい選択を迫られ背負うべき責任も大きくなっていきましたね。思うように結果が出ず、涙を流したこともありました。しかし、その度に皆さんは逞しく成長してきました。そして、最後の一年、それぞれの将来の目標に向けて自分自身と真剣に向き合ってきました。それが一番価値のあることであり、西高校での大きな財産です。最後まであきらめず挑戦した勇気こそが君たちの「核」となり、将来きっと力を発揮します。「人は困難を乗り越えることで成長していきます」これからの人生、苦しい時、負けそうな時、この言葉を胸に人生を切り開いて行って下さい。そして、人から愛され、世のため人のため、日本、国際社会に貢献する大きな人間になって下さい。応援しています。君たちの人生に幸多かれ。

一H担任　三浦　佐恵子

明けない夜はありません。つらい時こそ、顔をあげましょう。そこには、青い空、白い雲、月や瞬く星があり、ともに歩む仲間がいることに気づくはず。うまくいかないことが多くても、頑張る姿を誰かが必ず見てくれています。これからも、自分自身を鍛え磨き続けていってください。

卒業おめでとう。

一H副担任　横山　志保

あなたたちは、まだまだずっと遠くまで、高くまで行けるはず。目標に向けて精いっぱい歩いて、十年後、二十年後にその姿を見せてください。ありふれた言葉だけど、皆さんに出会えて本当に良かったです。ありがとう！

二H担任　國枝　真美

卒業おめでとうございます。

振り返ってみると、みんなと一緒に笑い、一緒に悩み、一緒に成長した三年間でした。どんなときも優しくひたむきなみんなの姿に、何度も励まされ、私自身が学ぶことの方が多かったように思います。本当にありがとう。

これからの活躍を楽しみにしています。

Keep your eyes on the stars,
and your feet on the ground.

T. Roosevelt

二H副担任　原　仁

ミュージシャンのデヴィッド・ボウイが、一月十日、六十九歳の生涯を閉じました。彼の曲「Heroes」の歌詞の一部を、皆さんへの贈る言葉とします。

卒業おめでとう。

I, I wish you could swim
Like the dolphins, like dolphins can swim
Though nothing, nothing will keep us together
We can beat them, forever and ever
Oh we can be heroes, just for one day

一緒に泳げたらって思うんだ
イルカみたいにどこまでも
自由に泳いでいけたらって
どうやってもずっと一緒にいられなくて
それでもあいつらを出し抜ける　好きなだけ何度でも
ヒーローになって輝ける
今日という日の間だけは

三H担任　二宮　脩

「夢見てた未来は　それほど離れちゃいない　また一歩　次の一歩　足音踏み鳴らせ」Mr.Childrenの曲の一節です。センター試験が終わったあと、毎朝この曲を聞いて学校に通っています。補習を一生懸命に受けている生徒、面接・小論文練習が上手くいかず悩む生徒、涙する生徒、就職が決まり、社会人になる準備をするために学校へ来て頑張る生徒、いろんな生徒が夢や目標に向かってがんばっている姿を見ました。高校三年生は人生におけるヤマ場のひとつだと思います。それを超えられた人に次があるのでしょう。これから卒業しても、まだまだヤマ場があります。でも、一歩一歩正しく進んでいればいつか夢や目標にたどり着けると思います。

「例えば雨雲が　目の前を覆ったって　また日差しを探して歩き出そう　時には灯りのない　孤独な夜が来たって　この足音を聞いてる　誰かがきっといる」

卒業おめでとう　また前を向いて歩き出せ。

三H副担任　井上　千夏

皆さんが入学してはや三年がたち、もう卒業だと思うとさみしい限りです。高校の三年間で、楽しいことも、友人関係や進路に悩んだこともあったでしょう。これからも目の前が悩みや不安でいっぱいになるときもあるかもしれません。でも、元気な体があれば大丈夫。何とかなるものです。まずは自分の体を一番大切に。そうすればいつか必ず希望は開けてきます。

卒業おめでとう。

四H担任　尾﨑　慎吾

自分の教員人生の中で間違いなくもっとも充実し、ハードでかつ楽しい三年間だった。そして君たちと過ごした三年間によって、西高のことがたまらなく好きになった。学校行事が大好きで、勉強も部活動も頑張り、そしてとにかく優しい君たち。卒業してからもさまざまなことにチャレンジし続けてください。

四H副担任　森田　智子

私は三年生一人ひとりに個性ある魅力を感じていますし、これからもっと成長し続ける人たちだと思います。それに、皆さんの笑顔は素敵です。本当です。私はそう思います。人生は良いこともあれば困難なこと、いろんなことがあると思います。自分を信じ、また、周りの人びとも支え合いながら前進してください。

四H副担任　堀地　和加

卒業おめでとう!

副担任として、なにも力になれなくて申し訳ないです。そんな私に、優しい声をよくかけてくれました。

ありがとう。

毎朝、ホームに行くのが楽しみでした。

卒業にあたって、

「念ずれば、花ひらく」

この言葉を贈ります。何事もこうありたいと一心に念ずれば必ず、よい方向へ道は開けると私は信じています。

それぞれの人生に、大輪の花が咲きますように!!

五H担任　南　和宏

卒業おめでとう。

勉強に、そして行事に、非常に充実した学校生活を送ったことでしょう。修学旅行、体育祭、ホームマッチ、あけぼの祭。一生の宝物ですね。

私にとっては三年連続で行った「まさかの日御子キャンプ場」が鮮烈でした。三年連続で川に飛び込まれちゃいました。

卒業後の人生には必ず起伏があります。そんなときには、DVDでも見て元気な自分を確認してください。

幸せな人生であることを祈ります。

五H副担任　川添　美樹

ご卒業おめでとうございます。初々しかった入学式の姿が懐かしいです。「古文を楽しく、現代文をわかりやすく」をモットーに授業を行ってきましたが、皆さんにとってはどうだったでしょうか。宿題に苦しんだだけの国語になっていなければ嬉しいのですが。三年間、本当によく頑張りました。これまでの頑張りが今後の糧になるはずです。明日からまた新たなスタート!　それぞれの地でのご活躍を心から祈っています。

五H副担任　岩田　憲知

卒業おめでとうございます。今、皆さんの瞼には、高知西高校で過ごした三年間の思い出が、走馬灯のように浮かんでいることでしょう。

大学は自由な時間が溢れています。進学される皆さんは、勉学に遊びにバイトに…。「隙間」を作らず、時間を目いっぱい活用して下さい。これからの人生が輝かしいものとなるよう、応援しています。

六H担任　黒岩　千代

卒業おめでとうございます。岐路に立って決断すべき時には、自分の心の声をちゃんと聴いて決めてください。きちんと選んだ道であれば、きっと助けてくれる人がいます。今の私は、四月に六ホーム担任を受けた自分に「よく決断した」と言ってあげたいです。それは、面白くて自由な個性派集団の六ホームの皆を始め、心優しい三年団の生徒達と先生方のおかげです。ありがとうございました。

六H副担任　岩﨑　りほ

卒業おめでとうございます。この三年間は、みなさんから多くのことを学んだとても充実した三年間でした。みんなの一生懸命な姿、元気な笑顔に勇気づけられました。

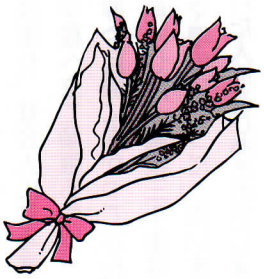
これから、一人ひとりが新しい道を歩んでいきます。様々な経験を重ねて、たくさんの人に出会い、自分自身の可能性を広げて、つらいことにもまっすぐ向き合える素敵な人になってください。いつまでも応援していますね。

七H担任　石丸　右京

三の七のみなさんが西高英語科に入学した時に繰り返し言っていたことがあります。「発表や体験など、とにかく自分で手をあげてやってみなさい。「やったことないからできません」では何もできません。」同じ言葉を、それぞれの道に羽ばたいていくみなさんに贈ります。とにかく色々なことを、多少嫌なこともやってみなさい。トライしなさい。そうすればMake a differenceできるでしょう。

七H副担任　黒石　雅宏

卒業生の皆さん御卒業おめでとうございます。私は卒業生の学年とは一年間のおつきあいでしたが、様々な学校行事で一緒に楽しませてもらい皆さんの頼もしさを感じました。今後の皆さんの御活躍を期待しています。



新二年生に向けて

一年学年主任　北村　千枝

一年生の生活も残り一ヶ月程。この一年間はどのような時間だったでしょうか？

皆さんは西高校でのSGH第一期生として、G探Iの授業、海外・県内外リサーチへの参加など、これまでの学年にはなかった取り組みにチャレンジしてきました。

その中で、学校行事や様々な活動に積極的に取り組む態度やクラスや学年団としての結束力が向上し、修学旅行全員参加や錬歩会完歩率一〇〇％を達成しました。

さて、四月からは二年生になります。二年生としての自分自身の目標を持っていますか？「何となくこれまでと同じように学習も部活もやっていれば、三年生になっても何とかなる。」と漫然と考えている皆さんはいませんか？

「二年生は中だるみの時期」といわれますが、皆さんにはその言葉は無縁のはず。G探でも二年生は一番前を走り続けます。その後を来年度の一年生がついて来るのです。

各自の未来を見据えて新たな道を切り拓く時、二年生での一年間をどう過ごすか、何をするかが重要な分かれ道になります。努力を惜しまず、学年団全員で頑張りましょう。

「汝らが前に高く高く理想を掲げよ。さすれば道は坦々として汝らが前に開けん。ただ歩めば至る」（旧制高知高等学校初代校長の訓辞）そんな一年間にしましょう！

新三年生に向けて

二年学年主任　川本　洋史

土台づくりの学年が昨日のように思える中、辛抱の学年も終わりが近づき、まもなく仕上げの学年が始まろうとしています。仕上げの一つには、進路の決定があります。三年次は卒業のための単位を修得するだけでなく、進路について現実と向き合いながら、答えを出さなければならない学年です。限界に辿り着けば納得が生まれます。悔いが残らないように精いっぱい努力をしましょう。

二つ目は、人と上手く付き合える心を磨きましょう。人と上手く付き合うには、「礼儀」「思いやり」「辛抱」などの要素があげられます。卒業後は新しい環境や人との出会いのなかで、社会人としての一年生が始まります。心を仕上げて社会人の準備をしましょう。

卒業は、高校生としてやるべきことを終えた証です。高校生としての営みは社会に出るための準備です。社会も準備ができた高校生を待っています。これから先、卒業までは時間が加速します。準備はよろしいですか？

修学旅行

〈スキー研修・東京リサーチ〉

2016年
1月25日(月)～1月29日(金)

修学旅行を終えて

一年学年主任　北村　千枝

この冬一番の寒さと積雪予報が出された一月二十五日（月）から、一年生最大の学年行事である修学旅行はスタートしました。

「全員揃って時間通りに修学旅行に出発できるのだろうか？」と不安に思った皆さんも多かったのではないでしょうか。

しかし、今年度の一年生はやはりすごい！　留学生のアウレルを含め生徒二七七名が全員参加し、インフルエンザ等での離団者もなく、無事に四泊五日の修学旅行を終えることができました。皆さんの団結力が天候さえも味方につけたのではないかと思う程でした。

スキー研修ではこれ以上ない晴天の中、わずか二日間で技術が随分向上し、スキーの楽しさを満喫できたことと思います。

二十八日のディズニーリゾートでのアトラクションやショッピングも期待を上回るものだったのではないでしょうか？

そして、二十九日の東京リサーチ。訪問先の企業等の説明を聞くだけでなく、自分達で考えた「地方創生モデル案」をプレゼンするという新たなミッションも加わりました。当日の朝までプレゼン練習している班もあり、皆さんの意気込みや真摯に取り組む態度に胸が熱くなりました。

今回の修学旅行は、皆さんに新たな体験や感動を与えてくれたと思います。是非その力を未来に向けてステップする原動力にしてください。「やればできる！」皆さんです。

保護者の皆様には、修学旅行の準備から悪天候、平日にもかかわらず生徒の送迎にご協力いただき、ありがとうございました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

一年一H　塩田　彩

修学旅行では、楽しかったことや学んだことがありました。

スキー研修では、初めてのスキーを体験して、インストラクターの人に教えてもらい、一日目に自分が思っていた予想よりも遥かに滑れるようになり、とても楽しかったです。

ディズニーでは、アトラクションに乗ったり、キャストの方のパフォーマンスを見て楽しんだりして、帰る時にはディズニーにもっといたいなと思うようになっていました。

東京リサーチでは、電車の中でも駅でも人の多さに戸惑いました。企業に着いてからは、担当の方が優しく接してくださって、私たちの質問にも、わかりやすい言葉で教えてくださいました。

そして、私たちの発表の時にも、ここをこうすればいいとアドバイスをくださり、企業から帰る時も、駅まで送ってきてもらってとても心強く感じました。

修学旅行では、いろいろな人に助けられたので、この感謝の気持ちを日々の生活に活かしていきたいです。

一年二H　松村　奈々

私は今回の修学旅行で初めての体験をたくさんすることができました。

初めてのスキーでは、雪の上で思うように行動することができず、滑ってこけてしまうことが何度もありました。しかし、そのたびに誰かが手を貸して立たせてくれ、改めて西高生の優しさを感じることができました。

また、東京リサーチでは、班の人だけで企業訪問をしました。初めての場所であり、途中で道を間違え、迷惑をかけてしまうこともありましたが、班の人たちは怒ることもなく、できるだけ早く到着するように努力してくれました。企業先では、その企業の経営方針や現在に至るまでの過程などさまざまなことを話してくだ

さり、とても参考になりました。なかでも、自分たちにしかできないことを常に考え、人々を笑顔にできる商品作りをしているという話は特に印象に残っています。

今回の修学旅行を通して、経験したり、学んだりしたことを今後の学校生活や人生の中で活かしたいと思っています。

一年三H　川村洸士郎

「寒波の影響で中止？」と直前までいけるかどうかすらわからなかった修学旅行。四泊五日の宿泊、団体行動を通してたくさんの経験ができました。スキー、ディズニー、企業研修、どれもが楽しくかけがえのない五日間となりました。ホテルでの宿泊では、普段から仲良くしている人だけでなく、他ホームの人といつも以上に関わることができ、いろいろな人との仲を深めることができました。

企業研修では、班ごとに都内や郊外にあるさまざまな企業への研修に行きました。ほとんどの人が東京は初めてで、入念に行き先を調べていても複雑な東京の路線は難しく、研修先に行くのにも苦労しました。企業の方からいろいろな質問や意見をいただき、更に考えが深まりました。

この修学旅行を通して、自分も成長できたし、何よりクラスの仲が深まったと思います。とても有意義な時間となりました。これからクラスも替わり、更に勉強も難しくなり、しんどいときもあると思いますが、辛いときこそ今回の修学旅行で得た絆で力を合わせて乗り越えていきたいと思います。

一年四H　伊藤　美緒

一番充実していたのは二日間のスキー研修です。一日目、インストラクターさんの紹介が終わってスキー板のはき方から丁寧に教えてもらいました。こけた時の起きあがり方の練習がどうしても起きあがれなくて少し憂うつでした。午後も基本的な滑り方をくり返し練習しました。昼ご飯のカレーライスは熱すぎました。

二日目はリフトに乗ることになりました。最初、一人で乗ったときは怖くて落ちそうでした。リフトに乗ったときに流れる曲が好きなものが多くて嬉しかったです。インストラクターさんが「次はあっちの大きいリフトにいきましょう」と言ったとき、正直帰ってこれるかなあと思っていました。頂上は怖すぎて降りるのに時間がかかりました。途中、私はインストラクターさんにストックを預かってもらって下に滑りました。でも、転ばずに降りることができて、自信になりました。頂上から降りることができてスキーが好きになりました。

一年五H　植松　友輝

一年生最大の学年行事、修学旅行が終わりました。この五日間を通して東京ディズニーシーと企業訪問がとても印象に残りました。

まず、四日目の東京ディズニーシーでは初めての人がほとんどで、アトラクションはもちろん、アトラクションの待ち時間でさえも、みんなでゲームや話をして楽しむことができました。

修学旅行最終日は企業訪問に行きました。大きな企業に訪問するということでとても緊張していましたが、いままでグローバル探究でやってきたことを生かしてプレゼンを成功させることができました。担当の方からは「高校一年生が考えたとは思えないすばらしいアイデアだった」とほめていただいたことが、とても心に残り、これからの自信にもなりました。

最後に、この五日間を通して、挨拶や時間を守るといった基本的なことの重要さに改めて気づくことができ、これからの学校生活に生かしていこうと思いました。

一年六H　田中　真央

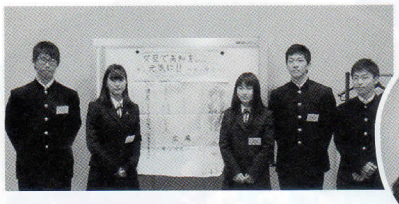
四泊五日の長いようであっという間だった修学旅行が終わりました。二日目、三日目は新潟、四日目、五日目が東京で楽しい時間を過ごしました。

最終日は各班で企業研修を行いました。今、私たちは毎週、グローバル探究という授業を行っています。そこでは「高知の食」をテーマとして、高知の食の誇れる場所や課題、どうすれば県外の方々に知ってもらえるのかを自分たちで考えてきました。企業研修では各班でプレゼンテーションを行い、企業の方々に意見や感想をいただきました。私た

東京リサーチ

1月29日の午前中、全56グループによる訪問学習が実施されました。
生徒の感想と企業様からの感想をいくつかご紹介いたします。

味の素食の文化センター



生徒からの感想

昔の資料や料理、食卓を再現した場所がたくさんあり、すごく昔を体感できました。今はとても便利だけど、そういう昔の文化も大切にしないといけないとすごく思いました。とても優しく、分かりやすく教えていただき、本当にありがとうございました。

企業からの感想

プレゼン発表は、館長や私以外に、専務理事や副理事長も拝聴いたしました。先生の行き届いたご指導と、真面目でしっかりした生徒さんたちで、チームワークの良さも好感が持てました。

セブン&アイ ホールディングス伊藤研修センター

生徒からの感想

自分たちだけで企業まで行くことも経験になったし、具体的に何をして成功したのかなどを聞くことができて、将来のためになりました。何より楽しかったです。

今回、セブン&アイ　ホールディングスの大切にしていることや、イトーヨーカドーなど他の企業のことを知ることができてよかったです。手巻き寿司体験では、衛生の大切さと流れ作業について学べました。丁寧に接してくださってありがとうございました。

先日の企業訪問ではセブン&アイの創業以来の「商いの心」を学ぶことができ、愛される企業がどのような理由で愛されているのか知ることができました。私たちが作成したモデル案にも適切なアドバイスをくださって、ありがとうございました。

企業からの感想

生徒の皆さんで考えてきた“地域の創生プラン”については実現できそうな内容も含まれており、非常に感心致しました。弊社も『地域性』については、今の時代の商売で非常に重要と考えており、高知県のセブンイレブンをはじめ、7&iの各店舗が取り組んでいる内容でございます。是非、『産学連携』で実現すると良いですね！

ちはJR東日本で働かれている間瀬雅晴さんの所に伺いました。プレゼンテーションの内容は「RYOMAFESTIVAL」について、これは私たちの班が考えた高知の食を使ったイベントです。フルーツトマトや芋けんぴを使っているのですが、間瀬さんは二つともご存じではありませんでした。カツオやユズは人気だけれど、フルーツトマトや芋けんぴは知られていないんだなと知り、悲しく驚きました。このほかにも間瀬さんから「国際化を目指す若い人に求められる資質と資格」についてお話しをいただきました。様々な経験をしてきたからこそ得られた考えを詳しくわかりやすく伝えてくださいました。

修学旅行では初めての経験や新たな発見などたくさんのことを学ぶことができました。感謝の気持ちを忘れずに授業はもちろん、将来にもつなげていきたいです。

一年七H　武市　香里

スキー研修では天候に恵まれ、とても楽しい二日間でした。スキーの初心者も数人おり、一日目の午前中はうまく滑れなかったり、苦労したりしましたが、インストラクターの方やスキーのメンバーの教えもあって午後には全員が滑れるようになりました。リフトに乗ったときの見晴らしもよく、高知では見られない雪景色がとてもきれいでした。

そして、四日目のディズニーシーではアトラクションに乗ったり、たくさん買い物ができてとても楽しかったです。また、ショーで踊っているキャラクターが可愛かったです。

そして、最終日の五日目、企業研修で初めて乗る電車にドキドキして、途中で電車に乗りそびれる人がいて、班が分裂するというハプニングがあったものの、無事に会社に着くことができてよかったです。研修では、業界で生きていくには時代の流れに合わせるのも大事だということなど、たくさんのことを学びました。今回の学習を活かして今後の生活やグローバル探求の授業に役立てたいと思います。

広報部 リサーチ 2015

男子1番乗り

女子1番乗り

西高伝統 第49回 錬歩会

2月9日、素晴らしい青空のもと恒例の錬歩会が行なわれ、広報部は昨年に引き続き取材のため同行させてもらいました。肌寒いスタート前でしたが、出発から30分もしないうちに体も温もり、烏帽子山の鉄塔付近で待機していた吉岡先生達3人にお会いした時は、額から汗が流れていました。

少し早く出発した私達と最初に出会った「第1西高生」は、烏帽子山の鉄塔を少し過ぎた急斜面のところで、元気な明るいイケメン君でした。その後は、歌をうたったり、「頑張ろう」などと各クラスで声を掛け合いながら錬歩会を楽しんでいる西高生達が列をなしてやってきました。途中、道を間違えてしまったクラスもあったそうですが、それも良い思い出となるでしょう。いつもながら団結力があり、友達を思いやる西高生と触れ合うことができた清々しい一日でした。

保護者チーム　4:34:44

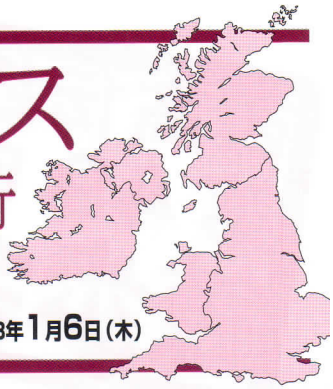
男子1位 2-4 2:01:09

女子1位 2-2 3:03:06

ニシメシ VOL.7

お母さんへメッセージ
いつもありがとう！

イギリス語学研修旅行の報告



平成27年12月18日（金）～平成28年1月6日（木）

日本との違い

二年七H　秋山　衿奈

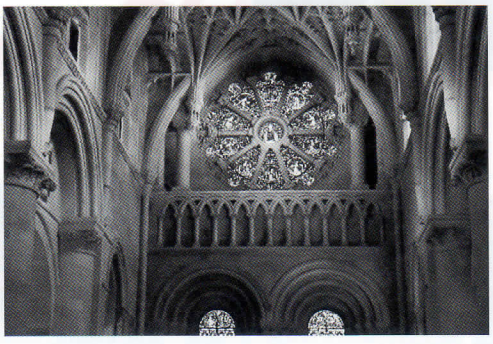
私は、今回の研修旅行で文化間の違いをしっかりと学び、たくさんの新しいことを発見をしました。これらの経験は実際に現地に行き、自分の五感で感じることでしか学ぶことのできないものだったと確信しています。イギリスならではのころころ変わる天候や伝統的な料理を体験し、綺麗な風景や歴史のある町並みを見、ホストファミリーと英語でコミュニケーションをとりながら三週間過ごしたことはこれからの将来を決めるにあたってとても貴重な経験になりました。

私が今回の研修で一番印象に残っていることは、向こうの老人介護施設です。私のホストファーザーのお父さんは八七歳で認知症を患っており、老人介護施設に入っていたので、Boxing dayとお正月にそこを訪れる機会がありました。特にBoxing dayには、そこの二階のホールでパーティーをすることになり、親戚やたくさんのお年寄りや介護士の方、シスターたちと交流することができました。

あんなに多くのお年寄りと話すのは初めてでした。まず初めにイギリスの老人介護施設について感じたことは、お年寄りがとても幸せそうだということです。どの方も笑顔で微笑みかけてくれたり、手を振ってくれたり、話しかけてくれたりしました。中には、九十歳という女性もいました。次に、介護士とお年寄りとの仲がとてもよいということです。とても明るくて過ごしやすそうな雰囲気の親しみやすい場所でした。イギリスの介護士は明るい方が多くていきなり踊りだしたりする人などがいて、みんな楽しそうに仕事をしていました。そして、そういった人を愉快そうに眺めるお年よりもたくさんいました。外国の介護施設を生で見ることはめったにない経験だと思いました。

そしてもう一つ気になることがありました。八十七歳のおじいちゃんは認知症なので何度も同じことを聞いてきました。このことは日本でもあることですが、違ったのは周りの家族の反応でした。私のホストファミリーはその事を面白がって、おじいちゃんが聞いた後で同じ質問を何度も繰り返したりしていました。日本人ならばしないことだと思います。イギリスの介護事情を見て日本の改善すべき所を発見したことにより、日本はまだまだ世界から学ぶことがあると改めて思いました。

◇◆◇◆◇



イギリスという国

二年七H　青木さくら

私は冬休みの約二十日間、イギリスへ語学研修に行ってきました。以前から海外の人々の暮らしや文化に興味のあった私は、ただ話を聞くだけではなく実際に自分の体でその国を感じたいと思い、語学研修への参加を決意しました。初めての海外旅行ということもあり、不安半分期待半分で日本を発ちました。

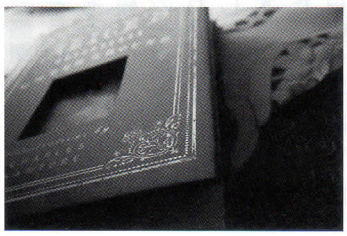
私を受け入れてくれたホストファミリーは優しいイラン人の老夫婦で、温かく迎え入れてくれました。用意されていた部屋もとても可愛らしく、滞在中はずっと快適に過ごすことができました。

私のこれまでのイギリスのイメージとしては、「食事が不味い」「天候が悪い」「人が冷たい」などマイナスのものがありました。特に食事が不味いというのは、日本だけでなく世界でも有名なイギリスのイメージではないでしょうか。しかし実際のところ、私がイギリスで口にした料理はどれも美味しいものばかりで驚きました。特徴としては脂っぽいものや肉、ポテトが多く、ボリュームも日本とは比べものになりません。そのため、自分が小食であることをあらかじめホストに伝えておきました。最初は躊躇しましたが、今後のためにも言うべきことは正直に言っておくのが良いと思います。

次に気候ですが、確かに晴れの日が圧倒的に少なかったです。朝晴れていたと思えば夕方には雨が…ということが毎日のようにありました。また日が落ちるのも早く、学校から家に帰り着くころには外は真っ暗。バスで

通学していた私は、バスの窓から降りるバス停を探さなくてはいけませんでしたが、全く見えず苦労しました。ただ、イギリスの人達はとても優しく紳士的で、困っている私をたくさんの人が助けてくれました。イギリス人は冷たいというイメージは間違いで、本当はとても優しい人達です。学校の先生やホストファミリー、それから街の人々、たくさんの人と触れ合うことでそれを実感しました。また、景色や建造物はどれもとても綺麗で、まるで絵本や映画の中のようです。カラフルで細かい装飾が施されていて、是非実際にイギリスで本物を見てほしいです。

最後に、今回この語学研修に参加したことで、私は人生観が大きく変わりました。慣れない土地で思うように日本語も使えず、本当に不安で一杯でした。けれど、その不安を大きく上回る楽しいことや嬉しいこと、たくさんの素敵な時間を過ごすことができました。もし海外に行くべきか怖くて迷っているという人は、勇気を出して行ってみてください。自分の知らない世界に出会える機会があるということは、本当に素晴らしいことだと思います。イギリスで過ごした時間は、私の宝物です。



◇◆◇◆◇

ホストファミリーとの暮らし

二年七H　長谷川巴南

今回のイギリスへの語学研修が私の初めての海外旅行となりました。憧れであったイギリスに行くことができて、親や親戚、先生、ホストファミリー、お世話になった皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。

この研修は自分自身様々な面で成長できた研修となり、日本へ帰ってきてからもこの体験を忘れてはいけない、この新鮮な気持ちを風化させてはいけないと切に思っています。

私のホストファミリーとの関係は、他の生徒たちとは少し異なっており、特別な経験をさせてもらえたと自負しています。ずばり、私のホストマザー・キャサリンは私にとってイギリスの母であり、友であり、英語の先生だったのです。〝先生〟というのは決して比喩ではなく、実際に通っていたインリンガ語学学校での英語教師であったということです。

私とキャサリンは毎日一緒に歩いて通学をしました。また、レッスンクラスも一緒だったのでほとんど一日中、一緒にいたようなものでした。彼女は一人暮らしだったので家では二人きりが多かったです。

そのような環境で私の苦悩は、圧倒的に〝話すこと〟についてでした。レッスンも登下校も、さらに観光地へ行く際も一緒ということは彼女も同じ体験を同じ時間にしている訳で「今日はこんなことがあったよ」と今日の出来事を話す必要も無かったのです。私の脳内は常に話のネタや質問を考えることでいっぱいで、普段はこれ程話すことに特化した脳の使い方はしないため不思議な感覚でした。そのことを引率の先生に打ち明けると「家族なんだから、そんな風に気負わなくてもいいんじゃない?」とごもっともな意見を頂き、それ以降はホストと二人きりの時の沈黙も、ありのままで自然なのかな、と思うようにしました。しかし自分の部屋に籠るのではなく、なるべくリビングでホストと一緒に居るようにしたことは、円滑な関係を築くために私が気を付けたことです。

日本にいる時とは勝手が違うので、私たちには常に「疑問」や「不安」がつきまといます。その負担を無くすために私たちがホストファミリーとどうコミュニケーションを取ることができるのか、という一点が非常に重要になってきます。私自身、自分の英語の力が不足して伝えられなかったことがあるし、四六時中一緒で疲れの捌け口が無かった事など、後悔すること、苦しかったこともありますが、彼女が私にしてくれたことは絶対的に優しさで溢れていました。この研修で最も感動したことは見ず知らずの外国人の私たちに優しさを与えてくれるホストファミリーという存在の有難さです。お互いを認め合うことを教えてくれました。私もいつか、ホストファミリーになってみたいと思うようになったのは研修以前と大きく変わった点だと思います。

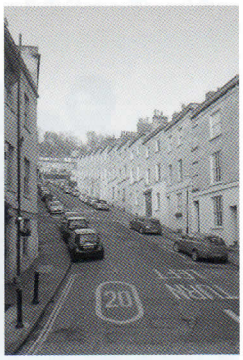
最後に、私の大好きなキャサリンの手料理はサンドウィッチです。毎日ランチの時間が一番楽しみでした。ランチを入れる紙袋に書かれる彼女からのメッセージは、私を強く励ましてくれました。ホストの存在が、この旅行を良いものにしてくれたのだと確信しています。また必ず会いに行きます。

◇◆◇◆◇

イギリス語学研修旅行

二年七H　西村　萌

文化、習慣、食べ物、街並みなど今回のイギリス研修で日本との様々な違いを知れた。毎日新たに知ることばかりで時間がたつのがとても早く感じた。日本で新しく学ぶことはなかなか身につかないのが不思議な程に、それらはすぐに記憶できた。たくさんの違いの中で特に興味を惹かれたのは、道路と天候だ。



まずは道路。信号機は縦で横断歩道は両端に線が引かれているだけであった。他にも、日本ではあまり見られないロータリー交差点をよく目にした。車に乗っている時に気付いたことは、カーブが緩やかで急カーブがほとんどないということだ。ちなみに、イギリスは日本と同じ左側通行なので車も右ハンドルである。バスに乗っている時には二階建てのバス（double decker）に視界が遮られるという経験をした。日本ではバスより高い乗り物は滅多にないため不思議な感覚だった。駐車の仕方にも違いがあった。イギリスのほとんどの家には車庫がなく車は道路に停めていた。両端に駐車されているので実際の車道の幅よりも狭くなっており車一台しか通ることができない場所もあった。対向車が通るのを待つため、信号以外の場所でも車が停まることが多かった。整備員はいないのに自然とどちらか一方が必ず停まり、かち合わないことに日頃からの慣れを感じた。そのとき、道を譲ってもらった方は手を軽く挙げるとい

った動作で感謝の気持ちを表していた。そういうところは日本と同じである。

次に天候。イギリスは西岸海洋性気候で一日の中に四季があると言われるほど天気の移り変わりが激しい、と授業で習っていたが、本当にそうだなとしみじみ感じた。例えば、Gloucesterに行った日のことである。店に入るときは晴れていたが、その約二十分後に店に入ってきた友達をみるとずぶ濡れだったのだ。聞くと、天気が一変し急に土砂降りになったそうだ。しかし、店を出るときには雨はすでに止んでいた。このように不安定な天気が多いため慣れているのか、現地の人は雨でも傘をささずフードを被るぐらいである。また、イギリスは緯度の割に暖かく、高知と比べてもさほど変わりはなかったが、日が沈むのが早く夜は冷えた。偏西風の影響か、雲の流れがとても速かったのが印象に残っている。実際にその地へ行って知識と比べることがこんなに面白いとは思わなかった。

この語学研修は、普通の旅行ではなかなか味わうことが出来ないことを経験できる貴重な機会だった。日常生活だけでなく、クリスマスや年越しといった特別な時間を現地の方と過ごすことができた。クリスマス仕様に飾り付けられている家で過ごす、大晦日から年明けにかけて音楽を大音量でかける、ロンドンの花火のテレビ中継を見ながら年明けを迎える、クラスの仲間と行くからこその楽しさがあるなど、この研修のおかげで気付けたことがたくさんある。

Friends'校生来訪 12月27日～1月21日

12月27日にFriends'校から3名の生徒が高知空港に到着しました。迎えてくれたのは3名の生徒たちのホストファミリー。ちょっぴり緊張しつつも年末、お正月と日本の年越しを各家庭で経験させていただきました。新年は三日間学校で日本語教室に参加し、いよいよ8日の始業式で全校生徒の前での日本語による挨拶。少し練習もして立派にこなしました。2週間という短い学校生活でしたが、3人はそれぞれのクラスでの授業や部活動、茶道体験、放課後の歓迎会、友達との交流や買いものなどを通してたくさんのことを体験しました。

ホストファミリーに見送られ、「また来たい」と口々に言いながら飛び立っていきました。

西高校に来た時からみんな僕にやさしいです。ホームルームでは、たくさん面白い友達を作りましたこの友達を決して忘れません。

優しさをありがとう。授業はよくわかりませんでしたが、高知の生活はめっちゃ楽しかったです。もし、将来チャンスがあったらまた来ます。

その時までさようなら！

Finlay Delanty

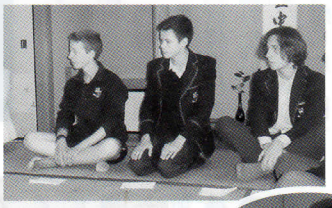
日本で過ごした時間は素晴らしかったです。

高知県で抹茶を飲んだり、たくさん和食を食べたり、ハイキングをしたりお正月を祝ったり、着物を着たりしました。

広島で原爆ドームを見たりしました。たくさん楽しいことをしました。僕は高知で過ごした時間を決して忘れません。また高知に帰ってくることを楽しみにしています。大変お世話になりました。

ありがとうございました。

Peter White



西高校に来た時からみんなの親切をたくさん感じることができました。違った種類の授業、毎日のトイレ掃除、朝から晩までのクラブ活動が、度胸のあるすごい生徒を作るんだなぁと思いました。西高校で出会った先生、生徒、特に1－6Hのみなさん本当にありがとうございました。また、帰ってきます。 O'Halloran Sebi

大学入試センター試験

平成二十八年度大学入試センター試験が一月十六日（土）・十七日（日）に実施されました。

本校からは、二百四十四名の生徒が高知大学で受験しました。生徒はそれぞれの目標に向かって最後までがんばりました。

本年度のセンター試験は全教科で新課程での実施となりました。平均点の結果から見た特徴は、国語が易化し、平均点が昨年度より十点上昇したこと、逆に数学ⅠAと倫理、さらに化学、化学基礎が難化したことがあげられます。本校の三年生は全体的には、新課程入試にうまく対応し、大崩れもなくよく健闘してくれたのではないかと思います。

一月二十二日（金）には、土佐塾予備校の楠瀬校長先生から、二次試験の出願動向と、試験に臨むうえでの留意事項や心構えについての話がありました。先生は最後に「二次試験に向けて必死に努力することは、君たち自身を成長させる。結果がわかる最後まで、決してあきらめることなくがんばってほしい。健闘を祈ります。」と熱い言葉で締めくくってくれました。

三年生は気持ちを切り替え、朝早くから二次対策補習や個別指導を受けたり、学習室などで勉強する姿が見られました。この努力はきっと実を結んでくれるものと期待しています。一、二年生のみなさんも三年生の努力を見習ってください。

「春はもう目の前です。」

進学・就職合格状況（現役）

平成28年2月22日　現在

	人数	内訳		
大学	150	国公立	28	横浜市立大学1　岡山大学2　愛媛大学1　高知大学15　高知県立大学6 高知工科大学3
		私立	122	獨協大学2　亜細亜大学1　駒澤大学3　明治大学2　成蹊大学1　立教大学1 日本体育大学1　東海大学2　日本女子体育大学1　中央大学1　日本大学1 法政大学1　神奈川大学1　関東学院大学1　金沢工業大学1 名古屋外国語大学1　同志社大学1　京都外国語大学1　京都産業大学4 京都女子大学2　京都精華大学1　京都光華女子大学1　京都橘大学2 佛教大学4　龍谷大学8　大阪大谷大学1　大阪国際大学1　大阪芸術大学1 大阪体育大学1　大阪電気通信大学1　大阪樟蔭女子大学1　近畿大学3 関西大学4　摂南大学1　桃山学院大学1　大和大学1　関西学院大学4 関西外国語大学2　関西福祉大学1　甲南女子大学1　神戸学院大学1 神戸女子大学2　神戸常盤大学1　武庫川女子大学1　天理医療大学1 岡山理科大学2　就実大学4　川崎医療福祉大学4　山陽学園大学1　美作大学2 環太平洋大学1　広島工業大学1　広島国際大学1　広島都市学園大学1 徳島文理大学10　四国学院大学3　松山大学14　西日本工業大学1 立命館アジア大学2
短期大学	14	私立	14	高知学園短期大学11　川崎医療短期大学1　関西外国語大学短大部1 美作大学短大部1
専門学校	38	私立	38	高知病院附属看護学校5　高知リハビリテーション学院10 近森病院付属看護学校6　龍馬看護ふくし専門学校1　高知県医師会看護学校1 高知職業能力開発短期大学校1　四国医療工学専門学校1 土佐情報経理専門学校1　駿台観光外語ビジネス専門学校1 山野美容専門学校1　エコール辻大阪2　大阪医専1　神戸総合医療専門学校1 岡山済生会看護専門学校1　東徳島医療センター附属看護学校1 東京アナウンス学院1　東京ファッション専門学校1　日本工科専門学校1 岡山理科大学専門学校1
就職	10	公務員 県外	2	松山地方検察庁1　四国森林管理局1
		公務員 県内	4	高知地方検察庁1　高知県警察官B1　高知県警察事務1　高知県刑務官1
		企業 県外	1	四国電力1
		企業 県内	3	四国銀行1　栗田商店1　西原鉄工所1

部活動等の記録

●男子バレーボール部

平成27年度高知県高等学校バレーボール冬季大会
- 1回戦　高知西 vs 中　村（2−0）
- 2回戦　高知西 vs 宿毛工（2−0）
- 3回戦　高知西 vs 学　芸（0−2）

●吹奏楽部

第39回全日本アンサンブルコンテスト四国支部大会
金管八重奏　銀賞
- 髙橋　立桜（2−1）　山下　里央（2−1）
- 藤岡　真帆（2−5）　南　穂樺（2−6）
- 森下里樹丸（2−6）　山上　彩香（2−6）
- 廣井　凜音（1−4）　藤田　彩花（1−7）

第39回全日本アンサンブルコンテスト四国支部大会
クラリネット八重奏　銀賞
- 田中　真琴（2−2）　弘田　莉子（2−3）
- 矢野　陽菜（2−3）　山﨑　麻衣（2−5）
- 石川　りの（1−2）　浅川　朋花（1−6）
- 片岡　萌子（1−6）　武市　香里（1−7）

第39回全日本アンサンブルコンテスト四国支部大会
木管三重奏　銀賞
- 滑川　敬一（1−2）　矢野　真衣（1−2）
- 鈴木柚里子（1−3）

●水泳部

高知県春季ジュニア水泳競技大会

女子 50mバタフライ	第2位	横田真奈香（1−4）
女子100m自由形	第3位	横田真奈香（1−4）
女子 50m背泳ぎ	第1位	西森　千紗（2−2）
女子100m背泳ぎ	第1位	西森　千紗（2−2）
女子 50m自由形	第1位	小松　由佳（2−5）
女子100m自由形	第1位	小松　由佳（2−5）

●剣道部

平成27年度高知県高等学校剣道冬季大会
- 個人　第3位　真部　蓮己（2−4）

●サッカー部

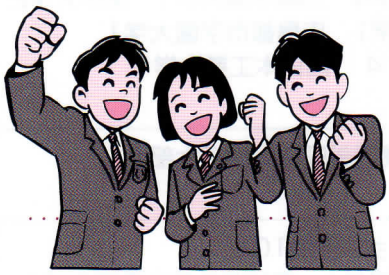
高円宮杯U-18サッカーリーグ2015
プリンスリーグ四国参入戦　優勝
- 1回戦　高知西（高知県1位）2−0徳島北（徳島県1位）
- 決勝戦　高知西0−0大手前高松（香川県1位）PK（4−2）

校内生徒表彰

3年間高校生活を頑張った生徒に贈られます。

●螢雪賞

坂本　紗和	岡村　凪	重松　優実
曽我明日香	蒲原　啓太	山口　侑姫
山本　泰晟	伊藤　綾音	植田　来希
中内　初音	堅田　愛花	谷田　悠
	藤崎　泰吉	坂本　渚
		濱田紗矢香
		藤谷　和佳
		米川　楓



●スポーツ賞

笠松　左京	谷田　悠
大村　花	光国　萌
小田穂乃佳	中島　鮎香
田井　沙苗	
濱田真望子	
田中　智也	
種田　水雪	
森本　真由	

●文化賞

矢野　風音	樋口　佳音
藤岡　舞	野中　怜香
田村　優衣	濵﨑　郁美
井上　弥咲	伊藤なるみ
坂本　紗和	野本　果南
小松　真也	山﨑　真奈
森　匠平	宇田　周平
矢野　梨菜	重松　優実

皆勤賞一覧

磯崎　萌	川村　勇斗	山西　悠大	近澤　史浩	藤崎　泰吉	佐々木　凜	多木　愛美
岩本　優衣	小松　真也	横田　安海	福永美南海	松村侑希乃	武市　百加	西村　航平
下元　省吾	白石　淑貴	横山　奈美	細川　雄慎	秋田　涼花	谷田　悠	濱田紗矢香
曽我明日香	田所　亜美	市原芽玖美	朝倉　陸	尾﨑菜稚嘉	光国　萌	藤谷　和佳
田中　智也	筒井　悠弥	伊藤　拓哉	小笠原大貴	下元　朝美	矢野　光孝	村岡　萌
坪内　渉	中内　初音	岡﨑向日葵	柏井　佑誠	日髙　文菜	山﨑　愛仁	山﨑　真奈
宗光　翔太	西村　涼	岡村　凪	堅田　愛花	山口　侑姫	馬﨑　恵	米川　楓
山本　泰晟	松本　錬	片岡　千尋	神尾　うた	和泉　友	大村　花	
井上　弥咲	森　匠平	蒲原　啓太	楠瀬　和真	小島　涼佑	小田穂乃佳	
今井　杏美	森本　真由	川村凌太郎	櫻木　大樹	清岡　雅	坂本　渚	
岡本　茜	山田望紗子	合田　真輝	佐々木祐紀	坂本　和也		

（平成28年2月22日現在　受賞予定者）

●書道部

第67回全国学生書道展
（公社）全日本書道連盟賞　森田　愛乃（2－5）

第24回国際高校生選抜書展
入選　森田　愛乃（2－5）
　　笹岡　未羽（2－4）

●英語科

四国高等学校国際教育生徒研究発表大会
（平成28年1月14日愛媛県）
意見発表の部・英語　優秀賞　坂下　　蛍（1－7

「四国遍路」高校生英語スピーチコンテスト
（平成28年1月24日愛媛県）（四国遍路日本遺産協議会
奨励賞　柳原　七海（3－7）

●平成27年度夏休みテレビ視聴感想文コンクール

最優秀	坂本　柚月	（2－2）
優秀	濱田りさ子	（3－6）
優秀	楠瀬　和真	（3－4）
優良	槇村　隼一	（3－1）
佳作	浅川　朋花	（1－6）

●第24回大原富枝賞

高校・小説の部	最優秀賞	伊賀上智史	（2－5）
	優秀賞	長谷川巴南	（2－7）
	優良賞	岡﨑向日葵	（3－3）
	佳　作	秋澤　果林	（3－3）
高校・随筆の部	優良賞	岡本　　茜	（3－2）

●第61回高知県青少年読書感想文コンクール

学校賞　高知県高等学校長協会長賞
個人賞
最優秀賞　重松優実　（3－5）
優秀賞　　中山紗葵　（2－2）

入選	岡田　和馬	（1－1）	井上　奈緒	（1－2）	矢野　真衣	（1－2）
	大野さくら	（1－3）	山中　　雅	（1－3）	森口　優香	（1－5）
	明智　茉那	（1－5）	三好　隆成	（2－3）	笹岡　未羽	（2－4）
	橋田侑里華	（2－5）	南　　穂樺	（2－6）	中澤　　桃	（2－7）
	山﨑　涼奈	（2－7）	甲藤　綾香	（3－2）	矢野　梨菜	（3－2）
	伊藤　　萌	（3－3）	下田　雪乃	（3－4）	竹﨑　晴香	（3－4）
	清岡　　雅	（3－6）	村岡　　萌	（3－7）		

PTA専門部の皆様ご協力ありがとうございました。

研修部　伊藤　浩市

本年度の研修部活動は岡山県で中・四国地区PTA連合大会が行われ、沢山の方に参加して頂き皆さん真剣に研修を行いました。

研修部の企画では、恒例の「卒業生を囲んでの座談会」を行い今回初めて社会人になられた卒業生もお招きし、普段聞けない受験の話や社会人になっての悩みや生活の様子、両親や先生への感謝など様々な貴重な経験を聞くことが出来、会場は涙や笑いに包まれました。西高の生徒はしっかりと目標を持ち勉学に励んでいる事を改めて認識し感動した時間でした。

今後も西高校が発展するため一人でも多くの保護者の方に参加して頂けるよう、このような企画を考案して参ります。

沢山の方にPTA活動にご協力いただき感謝し、今後もPTA活動にご理解・ご協力お願いします。

国際部　坂下　直美

子どもが西高校に入学しました。三人兄弟の末っ子ということで、これでPTAに関わることも最後だなと役員に手を上げました。せっかく西高校だし国際部にと思ったところ、あれれと部長になっていました。

国際部の活動は、子どもたち、留学生たちの活動資金の一助となるように二学期の行事で資金を稼ぐこと。体育祭のドリンク、アイス販売、お茶サービスは先輩役員さんや先生たちに助けられ、晴天に恵まれ、皆でわいわいこなせました。楽しい一日でした。

国際交流推進会でのクリスマスパーティーは、たどたどしい英語の自己紹介やサンタ折り紙で関わることができました。

何もわからないままアドバイスをもらいながらの一年でしたが、保護者の方と顔見知りになり、ラインを交換し楽しかったです。PTA活動は、親目線が笑いながら過ごせること、また、子どもたちの活き活きした笑顔を側で感じられることが素敵なのだと思います。「西校の子って礼儀正しいね、がんばるね、かわいいね」「○○先生仮装で顔が緑だったよ」と言いながら過ごす一日は親にとっても幸せな時間です。

来年はぜひ一緒に活動できたらうれしいです。

生活部　合田　典子

本年度の生活部の活動は、交通安全指導、県体での街頭補導、高P連育成活動への参加等でした。また、十一月のユニセフ支援活動では、皆様から多くの物品を提供していただき、無事バザーを行うことができました。

PTA活動を通してたくさんの方々との出会いがあり、子どもたちのことや学校のことを身近に感じることができた一年でした。ご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

次年度もPTA活動へのご協力よろしくお願いします。

広報部　原　信仁

広報部は本年度も皆さんのおかげで充実した「西高だより」を発行することができました。ありがとうございます。

私は広報部員を二年間務めました。経験もない私は何をしたらよいのかも分からず不安もありましたが、主な活動である「西高だより」の取材や編集などを他の部員の方と続ける中、楽しくなっていったのを思い出します。PTA活動に参加していなければ他の保護者の方と話をする機会や西高の子ども達と関わることもなかったと思いますが、広報部員をやれたおかげで他の保護者の方や子ども達と接することができました。

西高生の印象は、礼儀正しく明るく、何より元気です。当たり前ですが素晴らしいことだと思います。

広報部員としてPTA活動に参加したことは、他の保護者の方や子ども達と触れ合えることができた貴重な時間だったと振り返ります。是非、皆さんも来年度はPTA活動に参加してみてはいかがでしょう。

子どもと一緒に卒業するＰＴＡの達人アンケート

広報部リサーチ2015

Q1. なぜＰＴＡ活動に参加するようになりましたか？

・初めて「国際交流」の場にお伺いさせていただき皆さんの温かさに引き寄せられました。
・お役に立てることがあればしたいと思ったので
・クラスの保護者に誘われた
・娘があまりにも出来が悪いので（学業）、先生方にお世話をおかけすることが目に見えてました。その分、少しでも私がお役に立てればと思ったからです（笑）
・子どもがお世話になっているので、何かできることやお手伝いがあればと思い、できるだけ参加するようにしてきました。
・西高のＰＴＡ役員をしていた方に勧められ、学校の様子を知ることができると思ったから

Q2. ＰＴＡ活動をしてよかったことはありますか？

・西高の先生方とＰＴＡの皆さんの優しさから、会に参加させて頂く度にいろいろなことを学ぶことができました。
・学校の中や子どものことが見えてよかった
・クラブに入っていなかったら、他の保護者の方とお話しをする機会が全くないので、お知り合いができたこと
・同じような悩みを相談できたこと。
・子どもは学校の様子など話さなくなるけれど、役員の方を通じて、また先生に会うことで様子が知れたこと。
・一人目の子どもの高校入学でわからないことや不安なことも多かったですが、保護者の方とのつながりができ、些細なことまで聞けたり、ＰＴＡ活動で学校に行くことで、先生方にも伺えたこと。
・先生方や同学年、そして異学年の保護者の方とお話しする機会が持て、参加しなければ知らず知らずに終わった子どものことや学校のこと、また他の子どもさんの様子などを知ることができました。
・学校行事に参加することができ、保護者同志で仲よくなれた（錬歩会に参加して一緒に山歩きをすることになるとは思ってもみなかった。とても楽しかった。）

Q3. ＰＴＡ活動で大変だったことはありますか？

・卒業して皆さんとお別れすることが大変悲しいです。もっともっとずっと一緒にいたかったです。
・自分の仕事が忙しくて、あまりお手伝いすることができなかったので参加すべきではなかったのではと思いました。あまり参加できない人が入ると迷惑になるので安請け合いしたことを反省しています。
・器がないのに部長となり部をまとめることもできず、何より発言することの大変さを身にしみました。
・楽しかった思い出ばかりです。
・平日の夕方の会には遅れることもあり、他の保護者の方や先生方にご迷惑をおかけしました。
・仕事の都合で参加できない行事や会があったことは大変というより残念だった。

Q4. これからのＰＴＡ活動に期待すること

・西高のＰＴＡの皆さんはとても積極的ですばらしいと思います。これからも楽しんで活動してください。
・先生方がお忙しいので、各々の特質を活かしてお手伝いができたらよいのではないかと思う。
・「西カフェ」が今後、親の些細な進路の悩みや、進路実現の場所になり縦や横のつながりになってほしいと思います。
・ＰＴＡへの関わり方はそれぞれの生活スタイルなどにより様々でよいと思うので、少しでも多くのかたがわずかな時間でも参加しやすい雰囲気を入学式や学校説明会の時などに感じられたらいいなと思います。
・進路について、1年からの学力が大事だとわかってはいましたが、3年になり進路を真剣に考えるようになってから、もっと1年のうちから具体的に学力、進路の決め方、奨学金のしくみを理解する意識を持っていたらよかったと後悔しています。そう言ったことが横のつながりで情報収集しやすいものがあれば嬉しいです。
・役員間だけでなく同じクラスや部活の保護者の方にも機会があるごとに声をかけて仲間を増やして欲しいです。
・参加する方が限られてきたり、集まる人数が少ない会もあるかもしれませんが、子どものことや学校に関心を持つために続けていっていただきたいです。

Q5. こんな活動をすればよかったと思うことはありますか？

・今は性の不道徳が当たり前の時代です。親子で参加型のＰＴＡ活動で「お互いを大切にする」異性とのつきあい方などフランクに話し合えるような場があればよかったかなと思います。
・親子でスポーツ大会とかできたらいいなと思います。
・ＰＴＡのＨＰを作り、掲示板的な役割や親の知りたい情報などが得られるなどはどうでしょう
・その部が何を求められているのかを考えて行動ができなかったことを後悔しています。どんな方向性の活動が望まれるのかを学校の方からも指示していただけるといいかなぁと思います。
・もっとお父さん方に参加していただきたかったです。気軽に顔を出せるようなお父さんイベントを企画してみたもよかったかなと思いました。
・実際は忙しかったり諸事情で参加できない方もいると思いますが、「ＰＴＡ活動に参加しないのはもったいない」と思えるくらい、活動をわかりやすく説明したりすることができればいいのにと思います。

保護者として経験したこと、考えたこと、困ったことなど

・3年間親子で楽しい日々を送らせて頂き感謝です。とても幸せな日々でした。ありがとうございました。
・進路について本人がしたいことを応援できればと考えていました。なりたいものや夢は多少変わってきましたが、今しか挑戦できないことややりたいことを可能な限り応援しようと思っています。